様式第２号（政務活動実施報告書）

平成２６年　１月２０日

井原市議会議長
　　宮地　俊則　　様

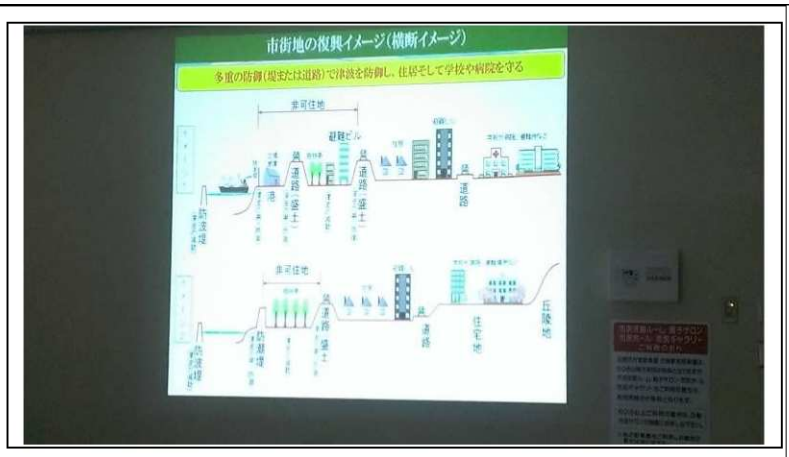
井原市議会議員　西村　慎次郎

下記のとおり政務活動を実施しましたので、報告します。

記

１．実　施　期　間	平成２６年１月１３日（月）～１月１５日（水）
２．研修会等の開催地または視察、要請・陳情活動先	○1 月 14 日（火） 宮城県石巻市穀町 14 番 1 号 石巻市役所 ○1 月 15 日（水） 静岡県駿東郡長泉町中土狩 828 長泉町役場
３．研修会等の名称または視察、要請・陳情活動内容	○石巻市役所 ・東日本大震災における被害状況と現状について 会議室及び現地での意見交換，質疑応答 ○長泉町役場 ・有害鳥獣対策バリアトーンの活用について 会議室及び現地での意見交換，質疑応答
４．研修会等の講師名または視察、要請・陳情活動先の担当者名	○石巻市役所 市議会事務局　次長　佐々木恭弘 同上　局長補佐　高橋　伸明 総務部防災対策課　副参事　熊谷　雅之 ○長泉町役場 町議会事務局　局長　田中　龍男 産業振興課　課長　川口　正晴 同上　課長　伊奈　健宏 町議会議員　下山　哲夫（現地視察）

５．活　動　内　容	★石巻市役所（平成 26 年 1 月 14 日 9:00～11:00） ①東日本大震災における被害状況と現状について説明 ○人口の変化（震災前:16.3 万人⇒震災後:15.1 万人） ○震災当日の津波被害のビデオ視聴（2 地点の映像） ○東日本大震災の概要 地震名：平成 23 年東北地方太平洋沖地震 災害名：東日本大震災 震災日時：平成 23 年 3 月 11 日 PM2 時 46 分 ○石巻市の被害状況 死者：3,166 人，行方不明者：434 人 最大避難所数：259 箇所，最大避難者数：50,753 人 被災住宅棟数　全壊：19,974 棟，半壊：13,098 棟 一部損壊：23,615 棟 被災住家率 76.6% 災害ガレキ：629 万トン⇒今年 3 月末までに処理完了 青色の部分が津波の被害にあったエリア ○応急仮設住宅 完成戸数：7,122 戸 現在までの入居者数：6,578 戸（14,981 人） 民間借上住宅：4,661 件（12,170 人） ○復興公営住宅：4,000 戸（目標） ○市街地の復興のイメージ (1) 沖合に防波堤を整備する（津波の減勢） (2) 高盛土による道路を整備する（津波の第一防御） (3) さらに非可住地をはさみ高盛土による道路を整備する（津波の第二防御）

５．活　動　内　容	 市街地復興のイメージ図 ②意見交換，質疑応答 ○災害時の議会・議員の行動について 東日本大震災の時は，委員会を開催していた。災害発生後すぐに委員会を中止し，議員は地元へ戻った。議員の安否確認に 10 日以上かかった。 東日本大震災後，「災害対応指針」及び「災害対策設置要綱」を策定した。連絡網や避難所の応援活動などを定めている。災害対策本部との連携や議員が災害対策本部の傍聴できる仕組みを作っている。 議員個々が，市担当課に対して対応を働きかけるのは，対応の優先順を間違う恐れがあるので，やらない方がよい。 ○民間借上住宅の提供について 県が借上住宅を提供している。 ③現地視察 震災前は 5000 人以上が住んでいた地域 震災前の風景（写真） 震災後の風景

５．活　動　内　容	★長泉町役場（平成 26 年 1 月 15 日 9:30～11:00） ①有害鳥獣対策バリアトーンの活用について説明 ○長泉町の概要 人口約 42,000 人 出生率，人口増加率が県内トップ 南北に 15km，東西に 2.5km の縦に細長い町 ○有害鳥獣対策について 長泉町では，サルとシカの被害が増加している。 (1)猟友会による駆除 年 180 万円で委託している。 昨年人身事故があり，今年度いっぱい猟銃による駆除は実施していない状況。 (2)柵やバリアトーン設置費に対する補助金 ※バリアトーンとは，特殊な音波で野生鳥獣を駆逐する音波発信機のこと。 設置に係る費用の 2 分の 1 以内で，認定農業者には 15 万円，その他の者には 5 万円を限度に補助。 (3)バリアトーン導入による効果 柿とさつまいもに関して，バリアトーンを利用。 昨年から設置し，現在 4 農家で利用 平成 25 年 7 月にサルの被害が発生。48 株(0.8%)の被害があり，バリアトーンを設置。設置後は，サルの被害はゼロ。 (4)今後の課題 一般の町民への周知がまだまだの状況であり，今後は研修会を開催するなどして町民への周知を図っていく予定。 ②意見交換，質疑応答 ○電気代はどれくらいかかるか。 基本料金＋α程度で，それほど高くない。 ○鳥獣が音波に慣れることはないか。 慣れる可能性はあるが，機器メーカーからは慣れはないと聞いている。町職員自身も慣れるような音ではないと考えている。 ○飼っている犬などへの影響はないか。 ないと考えている。

５．活　動　内　容	○バリアトーン設置範囲外への影響はないか。 バリアトーンは駆除するものではないので，影響が出る可能性はある。そのため，駆除するための対策も並行して行っていく必要がある。 ○近隣市町との連携はどうされているか。 話はしてきているが，連携して具体的な対策をしていることはない。 ○バリアトーンメーカーとの意見交換の実施はされているか。 今のところない。 ○音が人へ影響することはないか。 健康被害は受けることはないと思うが，中学生の農業実習をバリアトーンが設置されている場所で行ったところ，中学生には嫌な音と感じられたようである。 ③現地視察 柿園 バリアトーン 100m四方に１台のバリアトーン設置

５．活　動　内　容	★所感★ ■石巻市視察（1 月 14 日） 　前日の移動に 10 時間かけて石巻市まで行ってきた。途中，鉄道が不通の箇所があり，そこをバスで移動して石巻市へ入った。まだまだ公共交通機関も復旧していない部分が残っていた。 　宿泊したホテルは，仮設ホテルでホテルっぽくないホテルではあったが，良い体験をさせていただいた。 　石巻市の視察では，痛ましい津波のビデオを見せていただき，大変な災害だったと再認識させられた。職員を含め，市民の皆さまは大きな悲しみを背負っていらっしゃると思うが，それを感じさせず，復興に向けて，元気に前を向いて１歩ずつ進んでいこうとされているなと感じた。 　大きな被害のあった場所へも連れて行っていただいたが，まだまだ手つかずの場所もあり，技術者・作業者・資材が不足しているようだった。復興に向けた対応として印象に残ったのは，津波から町を守るのではなく，津波が来るまでの時間稼ぎをどうするかを基本に対策を検討されているということだった。 　井原市では，同様の災害は想定できないところではあるが，台風などの災害は想定できる。今回の視察で参考にできそうなのは，災害時の我々の行動指針を文書化しているところである。災害時に，各議員が勝手に行動し市職員へいろいろな要望をすることで，市の対応に支障をきたす恐れがある。そのため，行動指針を策定し，災害時に議員がとるべき行動を議員全員が共有しておくべきだと感じた。 ■長泉町視察（1 月 15 日） 　年々人口が増加している町で，今回は鳥獣対策で視察したが，いろいろな面で勉強になる町だと感じた。 　長泉町の鳥獣被害は，井原市と比較すると少ないようであったが，音波により鳥獣を寄せ付けない「バリアトーン」は，なかなか興味のある装置だった。１台約２０万円で耐用年数は５年，効果範囲は１００m四方ということだったが，電気代などの運用費を含めるとそれなりのコストとなる。栽培するものによっては，ペイできないことにならないか心配である。また，装置を付けていない場所への被害が増えることも心配である。 　そういうこともあるので，駆除を含めた総合的な対策が必要と感じる。逆の発想で，鳥獣の好む音波を出しておびき寄せて捕獲する手を考えても良いのではとも思った。

１．報告書は、政務活動終了後２週間以内に提出すること。
２．活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により活動内容を取りまとめ、活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

様式第２号（政務活動実施報告書）

平成２６年　１月２１日

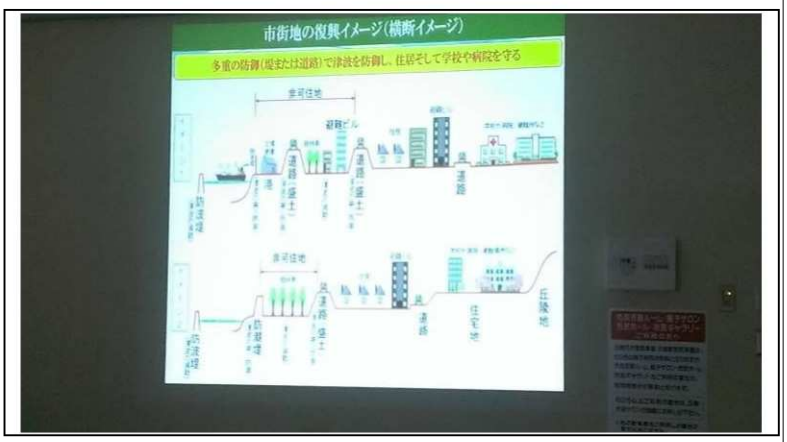
井原市議会議長
　　宮地　俊則　　様

井原市議会議員　河合　謙治

下記のとおり政務活動を実施しましたので、報告します。

記

１．実　施　期　間	平成２６年１月１３日（月）～１月１４日（火）
２．研修会等の開催地または視察、要請・陳情活動先	○1 月 14 日（火） 宮城県石巻市穀町 14 番 1 号 石巻市役所
３．研修会等の名称または視察、要請・陳情活動内容	○石巻市役所 ・東日本大震災における被害状況と現状について 会議室及び現地での意見交換，質疑応答
４．研修会等の講師名または視察、要請・陳情活動先の担当者名	○石巻市役所 市議会事務局　次長　佐々木恭弘 同上　局長補佐　高橋　伸明 総務部防災対策課　副参事　熊谷　雅之
５．活　動　内　容	★石巻市役所（平成 26 年 1 月 14 日 9:00～11:00） ①東日本大震災における被害状況と現状について説明 ○人口の変化（震災前:16.3 万人⇒震災後:15.1 万人） ○震災当日の津波被害のビデオ視聴（2 地点の映像）

５．活　動　内　容	○東日本大震災の概要 　地震名：平成 23 年東北地方太平洋沖地震 　災害名：東日本大震災 　震災日時：平成 23 年 3 月 11 日 PM2 時 46 分 ○石巻市の被害状況 　死者：3,166 人，行方不明者：434 人 　最大避難所数：259 箇所，最大避難者数：50,753 人 　被災住宅棟数　全壊：19,974 棟，半壊：13,098 棟 　　一部損壊：23,615 棟 　　被災住家率 76.6% 　災害ガレキ：629 万トン⇒今年 3 月末までに処理完了 青色の部分が津波の被害にあったエリア ○応急仮設住宅 　完成戸数：7,122 戸 　現在までの入居者数：6,578 戸（14,981 人） 　民間借上住宅：4,661 件（12,170 人） ○復興公営住宅：4,000 戸（目標） ○市街地の復興のイメージ 　(1) 沖合に防波堤を整備する（津波の減勢） 　(2) 高盛土による道路を整備する（津波の第一防御） 　(3) さらに非可住地をはさみ高盛土による道路を整備する（津波の第二防御）  市街地復興のイメージ図

５．活　動　内　容	②意見交換，質疑応答 ○災害時の議会・議員の行動について 東日本大震災の時は，委員会を開催していた。災害発生後すぐに委員会を中止し，議員は地元へ戻った。議員の安否確認に 10 日以上かかった。 東日本大震災後，「災害対応指針」及び「災害対策設置要綱」を策定した。連絡網や避難所の応援活動などを定めている。災害対策本部との連携や議員が災害対策本部の傍聴できる仕組みを作っている。 議員個々が，市担当課に対して対応を働きかけるのは，対応の優先順を間違う恐れがあるので，やらない方がよい。 ○民間借上住宅の提供について 県が借上住宅を提供している。 ③現地視察 震災前は 5000 人以上が住んでいた地域 震災前の風景（写真） 震災後の風景

５．活　動　内　容	★所感★ 個人的に、体調をくずしてしまい、十分な活動視察ができなかったことに悔いを残こしてしまいました。 もう一度行って、はっきりと見てきたいと思います。

１．報告書は、政務活動終了後２週間以内に提出すること。
２．活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により活動内容を取りまとめ、活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

様式第２号（政務活動実施報告書）

平成２６年　１月２０日

井原市議会議長
　　宮地　俊則　　様

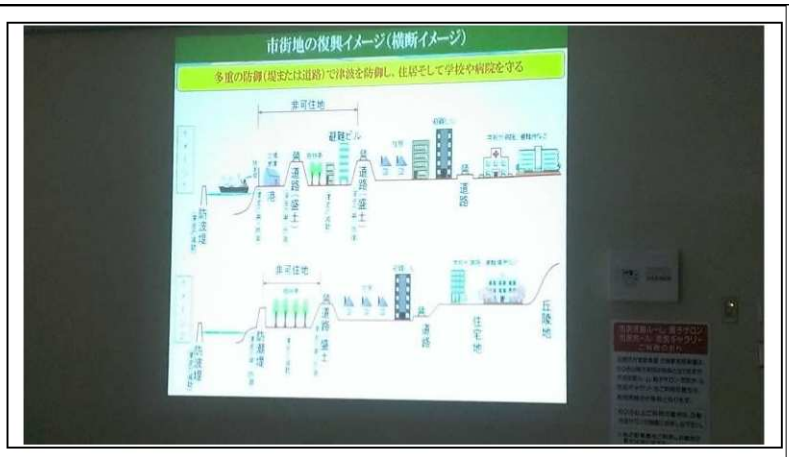
井原市議会議員　　荒木　謙二

下記のとおり政務活動を実施しましたので、報告します。

記

１．実　施　期　間	平成２６年１月１３日（月）～１月１５日（水）
２．研修会等の開催地または視察、要請・陳情活動先	○1 月 14 日（火） 宮城県石巻市穀町 14 番 1 号 石巻市役所 ○1 月 15 日（水） 静岡県駿東郡長泉町中土狩 828 長泉町役場
３．研修会等の名称または視察、要請・陳情活動内容	○石巻市役所 ・東日本大震災における被害状況と現状について 会議室及び現地での意見交換，質疑応答 ○長泉町役場 ・有害鳥獣対策バリアトーンの活用について 会議室及び現地での意見交換，質疑応答
４．研修会等の講師名または視察、要請・陳情活動先の担当者名	○石巻市役所 市議会事務局　次長　佐々木恭弘 同上　局長補佐　高橋　伸明 総務部防災対策課　副参事　熊谷　雅之 ○長泉町役場 町議会事務局　局長　田中　龍男 産業振興課　課長　川口　正晴 同上　課長　伊奈　健宏 町議会議員　下山　哲夫（現地視察）

５．活　動　内　容	★石巻市役所（平成 26 年 1 月 14 日 9:00～11:00） ①東日本大震災における被害状況と現状について説明 ○人口の変化（震災前:16.3 万人⇒震災後:15.1 万人） ○震災当日の津波被害のビデオ視聴（2 地点の映像） ○東日本大震災の概要 地震名：平成 23 年東北地方太平洋沖地震 災害名：東日本大震災 震災日時：平成 23 年 3 月 11 日 PM2 時 46 分 ○石巻市の被害状況 死者：3,166 人，行方不明者：434 人 最大避難所数：259 箇所，最大避難者数：50,753 人 被災住宅棟数　全壊：19,974 棟，半壊：13,098 棟 一部損壊：23,615 棟 被災住家率 76.6% 災害ガレキ：629 万トン⇒今年 3 月末までに処理完了 青色の部分が津波の被害にあったエリア ○応急仮設住宅 完成戸数：7,122 戸（134 団地） 現在までの入居者数：6,578 戸（14,981 人） 民間借上住宅：4,661 件（12,170 人）原則 2 年 ○復興公営住宅：4,000 戸（目標）現在進捗率 1% ○市街地の復興のイメージ (1) 沖合に防波堤を整備する（津波の減勢） (2) 高盛土による道路・防潮堤を整備する（第一防御） (3) さらに非可住地をはさみ高盛土による道路を整備する（第二防御）

５．活　動　内　容	 市街地復興のイメージ図 ②意見交換，質疑応答 ○災害時の議会・議員の行動について 東日本大震災の時は，委員会を開催していた。災害発生後すぐに委員会を中止し，議員は地元へ戻った。議員の安否確認に 10 日以上かかった。 東日本大震災後，「災害対応指針」及び「災害対策設置要綱」を策定した。連絡網や避難所の応援活動などを定めている。災害対策本部との連携や議員が災害対策本部の傍聴できる仕組みを作っている。 議員個々が，市担当課に対して対応を働きかけるのは，対応の優先順を間違う恐れがあるので，やらない方がよい。 ○民間借上住宅の提供について 県が借上住宅を提供している。 ③現地視察 震災前は 5000 人以上が住んでいた地域 震災前の風景（写真） 震災後の風景

５．活　動　内　容	★長泉町役場（平成 26 年 1 月 15 日 9:30～11:00） ①有害鳥獣対策バリアトーンの活用について説明 ○長泉町の概要 人口約 42,000 人 出生率 1.70，人口増加率が県内トップ 南北に 15km，東西に 2.5km の縦に細長い町 ○有害鳥獣対策について 長泉町では，サルとシカの被害が増加している。 (1)猟友会による駆除 年 180 万円で委託している。 昨年人身事故があり，今年度いっぱい猟銃による駆除は実施していない状況。 (2)柵やバリアトーン設置費に対する補助金 ※バリアトーンとは，特殊な音波で野生鳥獣を駆逐する音波発信機のこと。 設置に係る費用の 2 分の 1 以内で，認定農業者には 15 万円，その他の者には 5 万円を限度に補助。 (3)バリアトーン導入による効果 柿とさつまいもに関して，バリアトーンを利用。 昨年から設置し，現在 4 農家で利用 平成 25 年 7 月にサルの被害が発生。48 株(0.8%)の被害があり，バリアトーンを設置。設置後は，サルの被害はゼロ。 (4)今後の課題 一般の町民への周知がまだまだの状況であり，今後は研修会を開催するなどして町民への周知を図っていく予定。 ②意見交換，質疑応答 ○電気代はどれくらいかかるか。 基本料金＋α程度で，それほど高くない。 ○鳥獣が音波に慣れることはないか。 慣れる可能性はあるが，機器メーカーからは慣れはないと聞いている。町職員自身も慣れるような音ではないと考えている。 ○飼っている犬などへの影響はないか。 ないと考えている。

５．活　動　内　容	○バリアトーン設置範囲外への影響はないか。 バリアトーンは駆除するものではないので，影響が出る可能性はある。そのため，駆除するための対策も並行して行っていく必要がある。 ○近隣市町との連携はどうされているか。 話はしてきているが，連携して具体的な対策をしていることはない。 ○バリアトーンメーカーとの意見交換の実施はされているか。 今のところない。 ○音が人へ影響することはないか。 健康被害は受けることはないと思うが，中学生の農業実習をバリアトーンが設置されている場所で行ったところ，中学生には嫌な音と感じられたようである。 ③現地視察 柿園 バリアトーン 100m四方に１台のバリアトーン設置

	★所感★ ①石巻市視察 説明に先立って、当時の津波による壊滅的な被害状況をビデオで見たが、改めて、自然災害に対しては、防御で対応するのは難しく、こうした経験をもとに、減災に向けたまちづくりの推進をしていかなければならないと感じた。 また、石巻市においては、23年からの3年間は、復旧が終えただけで、これからの4年間が再生期、また、後の3年間が発展期との基本計画を作成されているが、国、県、市との連携が重要であるのは当然であるが、役所内でもマンパワーの不足も懸念されており、ハード面にしても入札において入札中止あるいは不調もあるが、今後は、加速化して、早急な復興に向けて動き出すことを願うばかりである。 議員としては、応急時の対応は被災住民との橋渡し、情報伝達であり、復興時には本来の審議機能・監視機能等の議員本来の役割の発揮することにある。また、執行部との情報の共有、一本化は重要であると認識しておかなければならないと感じた。 ②長泉町視察 現地視察をさせていただいたが、野生鳥獣を駆逐する音波発信機（バリアトーン）は特殊な嫌がる音波で人的な影響はないのとのことではあるが、人間でも耳障りな音ではあると感じた。半径５０ｍの範囲で有効のことではあるが、駆除ではないので隣接地との連携が必要であり、長泉町では猟友会が事故により、活動自粛とのことで駆除による有害鳥獣の減少は否めないが、来年度からは、連携して相互に努めれば、効果は上がると感じた。 ただ、バッテリー式と電線からの引き込みと両方あるが、バッテリー式では２日間しかもたないことを考えると引き込み式を選択しなければならない。そうなると、場所によっては、経費の加算が見込まれ、設置には難しい面もあると感じた。 長泉町は奇跡の自治体とのことで高い出生率（1.70）豊かな財政力（財政指数 1.446）がん治療日本一の評価の県立がんセンターを持ち、世界遺産に認定された富士山のふもとにあり、豊富な水資源を背景に企業誘致も成功している。こういったことも含めて今後も、近隣市町と共に視察したい町ではある。

１．報告書は、政務活動終了後２週間以内に提出すること。
２．活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により活動内容を取りまとめ、活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

様式第２号（政務活動実施報告書）

平成２６年　１月１６日

井原市議会議長
　　宮地　俊則　　様

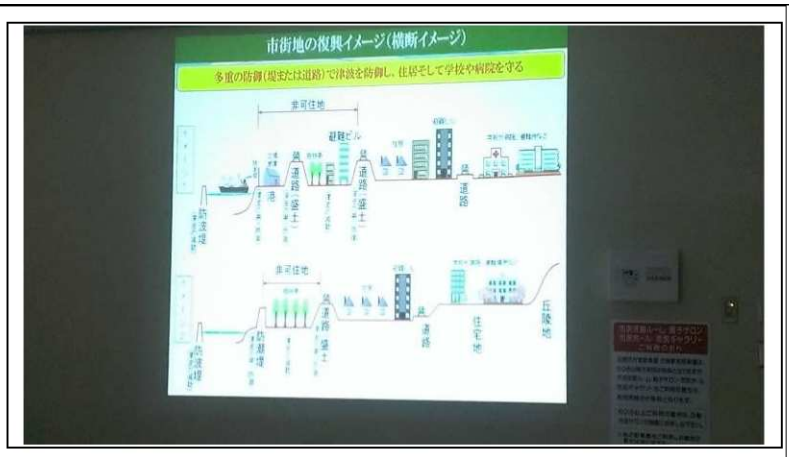
井原市議会議員　　惣台　己吉

下記のとおり政務活動を実施しましたので、報告します。

記

１．実　施　期　間	平成２６年１月１３日（月）～１月１５日（水）
２．研修会等の開催地または視察、要請・陳情活動先	○1 月 14 日（火） 宮城県石巻市穀町 14 番 1 号 石巻市役所 ○1 月 15 日（水） 静岡県駿東郡長泉町中土狩 828 長泉町役場
３．研修会等の名称または視察、要請・陳情活動内容	○石巻市役所 ・東日本大震災における被害状況と現状について 会議室及び現地での意見交換，質疑応答 ○長泉町役場 ・有害鳥獣対策バリアトーンの活用について 会議室及び現地での意見交換，質疑応答
４．研修会等の講師名または視察、要請・陳情活動先の担当者名	○石巻市役所 市議会事務局　次長　佐々木恭弘 同上　局長補佐　高橋　伸明 総務部防災対策課　副参事　熊谷　雅之 ○長泉町役場 町議会事務局　局長　田中　龍男 産業振興課　課長　川口　正晴 同上　課長　伊奈　健宏 町議会議員　下山　哲夫（現地視察）

５．活　動　内　容	★石巻市役所（平成 26 年 1 月 14 日 9:00～11:00） ①東日本大震災における被害状況と現状について説明 ○人口の変化（震災前:16.3 万人⇒震災後:15.1 万人） ○震災当日の津波被害のビデオ視聴（2 地点の映像） ○東日本大震災の概要 地震名：平成 23 年東北地方太平洋沖地震 災害名：東日本大震災 震災日時：平成 23 年 3 月 11 日 PM2 時 46 分 ○石巻市の被害状況 死者：3,166 人，行方不明者：434 人 最大避難所数：259 箇所，最大避難者数：50,753 人 被災住宅棟数　全壊：19,974 棟，半壊：13,098 棟 一部損壊：23,615 棟 被災住家率 76.6% 災害ガレキ：629 万トン⇒今年 3 月末までに処理完了 青色の部分が津波の被害にあったエリア ○応急仮設住宅 完成戸数：7,122 戸 現在までの入居者数：6,578 戸（14,981 人） 民間借上住宅：4,661 件（12,170 人） ○復興公営住宅：4,000 戸（目標） ○市街地の復興のイメージ (1) 沖合に防波堤を整備する（津波の減勢） (2) 高盛土による道路を整備する（津波の第一防御） (3) さらに非可住地をはさみ高盛土による道路を整備する（津波の第二防御）

５．活　動　内　容	 市街地復興のイメージ図 ②意見交換，質疑応答 ○災害時の議会・議員の行動について 東日本大震災の時は，委員会を開催していた。災害発生後すぐに委員会を中止し，議員は地元へ戻った。議員の安否確認に 10 日以上かかった。 東日本大震災後，「災害対応指針」及び「災害対策設置要綱」を策定した。連絡網や避難所の応援活動などを定めている。災害対策本部との連携や議員が災害対策本部の傍聴できる仕組みを作っている。 議員個々が，市担当課に対して対応を働きかけるのは，対応の優先順を間違う恐れがあるので，やらない方がよい。 ○民間借上住宅の提供について 県が借上住宅を提供している。 ③現地視察 震災前は 5000 人以上が住んでいた地域 震災前の風景（写真） 震災後の風景

５．活　動　内　容	★長泉町役場（平成 26 年 1 月 15 日 9:30～11:00） ①有害鳥獣対策バリアトーンの活用について説明 ○長泉町の概要 人口約 42,000 人 出生率，人口増加率が県内トップ 南北に 15km，東西に 2.5km の縦に細長い町 ○有害鳥獣対策について 長泉町では，サルとシカの被害が増加している。 (1)猟友会による駆除 年 180 万円で委託している。 昨年人身事故があり，今年度いっぱい猟銃による駆除は実施していない状況。 (2)柵やバリアトーン設置費に対する補助金 ※バリアトーンとは，特殊な音波で野生鳥獣を駆逐する音波発信機のこと。 設置に係る費用の 2 分の 1 以内で，認定農業者には 15 万円，その他の者には 5 万円を限度に補助。 (3)バリアトーン導入による効果 柿とさつまいもに関して，バリアトーンを利用。 昨年から設置し，現在 4 農家で利用 平成 25 年 7 月にサルの被害が発生。48 株(0.8%)の被害があり，バリアトーンを設置。設置後は，サルの被害はゼロ。 (4)今後の課題 一般の町民への周知がまだまだの状況であり，今後は研修会を開催するなどして町民への周知を図っていく予定。 ②意見交換，質疑応答 ○電気代はどれくらいかかるか。 基本料金＋α程度で，それほど高くない。 ○鳥獣が音波に慣れることはないか。 慣れる可能性はあるが，機器メーカーからは慣れはないと聞いている。町職員自身も慣れるような音ではないと考えている。 ○飼っている犬などへの影響はないか。 ないと考えている。

５．活　動　内　容	○バリアトーン設置範囲外への影響はないか。 バリアトーンは駆除するものではないので，影響が出る可能性はある。そのため，駆除するための対策も並行して行っていく必要がある。 ○近隣市町との連携はどうされているか。 話はしてきているが，連携して具体的な対策をしていることはない。 ○バリアトーンメーカーとの意見交換の実施はされているか。 今のところない。 ○音が人へ影響することはないか。 健康被害は受けることはないと思うが，中学生の農業実習をバリアトーンが設置されている場所で行ったところ，中学生には嫌な音と感じられたようである。 ③現地視察 柿園 バリアトーン 100m四方に１台のバリアトーン設置

５．活　動　内　容	★所感★ ○　石巻市役所 　東日本大震災における石巻市の被害状況と現状についての説明。 　復興計画は着々と進められているが、国、県、市との調整、直接被害を受けられた市民とうけられなかった市民との考えのズレが、ハード面、ソフト面の両方で生じている。 　東日本大震災後、「災害対策指針」及び「災害対策設置要領」を策定し、連絡網や避難所の応援活動など定めている。 　災害対策本部との連携や議員が災害対策本部の傍聴できる仕組みを作っている。 　議員個々が、市担当課に対して対応を働きかけるのは対応の優先順位を間違う恐れがあるので、やらない方がよい、地区住民とお互いを支え合える、助け合えるよう日頃の努力が大切である。 ○　長泉町役場 　有害鳥獣対策バリアトーンの活用について。 　バリアトーンは駆除するものではないので設置範囲外への影響がでる可能性がある。そのため駆除するための対策も並行して行う必要がある。

１．報告書は、政務活動終了後２週間以内に提出すること。
２．活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により活動内容を取りまとめ、活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

様式第２号（政務活動実施報告書）

平成２６年　１月２０日

井原市議会議長
　　宮　地　俊　則　　様

井原市議会議員　　三　宅　文　雄

下記のとおり政務活動を実施しましたので、報告します。

記

１．実　施　期　間

　　平成２６年　１月１３日～　１月１５日

２．研修会等の開催地または視察、要請・陳情活動先

（１）宮城県石巻市役所

（２）静岡県駿東郡長泉町役場

３．研修会等の名称または視察、要請・陳情活動内容

（１）東日本大震災における被害状況と現状について

（２）「バリアトーン」の活用状況について

４．研修会等の講師名または視察、要請・陳情活動先の担当者名

（１）石巻市議会事務局　　佐々木　恭弘　様
　　高橋　伸明　様
　　石巻市総務部防災対策課　　熊谷　雅之　様

（２）長泉町役場議会事務局　　田中　龍男　様
　　長泉町産業振興課　　川口　正晴　様.
　　伊那　健宏　様

５．活　動　内　容

（１） 東日本大震災における被害状況と現状について

２０１１年３月１１日、１４時４６分にＭ９．０の大地震発生．その直後に東日本沿岸を襲った巨大津波の被害状況と現状について石巻市を視察してきました。

大震災発生時の１年前に購入た現在の庁舎は、６階建ての店舗で、あの大震災では、６階部分の天井が落下したそうで、比較的被害も少なかったとか。大震災直後から庁舎内に災害対策本部が設置され、被災者の救援にあたった前線指令基地でもある。

５階の市民活動ルームにおいて、担当者から石巻市の被害状況について説明があった。その後、市内３ヶ所で撮影されたビデオで、津波が襲ってきた模様とか人や車が流れていく様子等を見せていただいた。今まで幾度かこのような状況をテレビやビデオでみてはいたが、被災地での鑑賞となると、より現実味をおびていて担当者の説明にも迫力が感じられた。そして庁舎のなかから見える、石巻駅の電車、人や車、周囲の建物は津波襲来時どうであったのか。当時の状況について話をしていただいた。

最後に復興にむけての今後の街づくりについて説明があった。可住地域と非可住地域に分けて、現地盤から４．５ｍの高さに道路をあげて、二重にも三重にも津波の防御対策を講じるとの考えである。そして住宅団地や学校、病院等は高台へ移し、また低地の可住地域には、避難ビルを建設する計画をしているとのことである。

その後現地視察、市内の被災状況を一望できる場所、日和山という神社や公園がある高台に案内していただいた。まず驚いたのは、被災地のその広さである。ガレキはすでに撤去され広々とした荒野に、かっては多くの人々の往来があり、地域としての生活スタイルがあり、子供たちの笑顔もあったであろうと思うと胸が詰まる。

そしてあの大津波で更地となってしまった現地へと移動、ポツンと立っていた供養塔の前では思わず手を合わせ、亡くなられた方々のご冥福をお祈りしてきた。

日本有数の漁港でもある石巻港、ここを訪れてみてまず最初に感じたこと、それは生活基盤でもある水産業の復旧の遅れである。隣接した工場群は本格的に稼動しているようだが、水産業施設の復旧はまだまだ。大震災からまもなく丸３年、人々の顔にもようやく笑顔が戻り、少しずつではあるが復旧に向けて動き始めているように感じた。本格的な復興、活気ある街づくりに向けて、建設はまさにこれからが本番である。

（２）「バリアトーン」の活用について

中山間地域に農業従事者を多く抱える井原市において、近年、毎回のように議会で取り上げられている質問項目のひとつに、有害鳥獣対策があります。

従来から取り上げられている有害鳥獣としてはイノシシ、猿などがこの地域に多くいますが、最近では日本鹿の出没も報告されています。トタン、鉄筋等によるヘイや電柵、ククリやワナ等、また猟友会にお願いしての捕獲駆除と、いろいろ取り組んでおられますが、被害は収まるどころか、依然として増加傾向にあります。

そこで私たちは、有害鳥獣対策として「バリアトーン」という超音波発信機を使用して、被害を最小限に食い止めることに成功した、という事例が新聞で報道されたのを知り、実際に行ってみてみたいと思い、静岡県長泉町を訪ねました。

長泉町には北部地区に農家が数多くあり、特産品である柿の栽培が行われているところである。以前から猿とか日本鹿による被害が報告されていて、いろいろ対策を講じてきたが、有効な手段とはなり得なかったとのこと。そこで平成２４年度から「バリアトーン」の使用を始めたところ、それらの有害鳥獣が全く寄り付かなくなったとのことである。費用も一基当たり２０万円位と手頃で半額を町が助成しているとか。

町役場での説明ののち、担当者の方に現地に案内してもらって、「バリアトーン」を実際に使っている農家の方から話を聞いた。発信源から概ね５０ｍ位では全く姿を見なくなったとのことである。この超音波、苦手なのは有害鳥獣のみならず、人間でも若い人、特に中学生位の年代の人にはよく聞こえて、不快感を与えるそうである。

井原市でも、有害鳥獣対策に効果的な方法をいろいろと研究されているとは思いますが、「バリアトーン」で成果を上げたという事例は、一見の余地があると思いました。

１．報告書は、政務活動終了後２週間以内に提出すること。
２．活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により活動内容を取りまとめ、活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

様式第２号（政務活動実施報告書）

26 年　　1 月　23 日

井原市議会議長
宮地　俊則様

井原市議会議員　坊野　公治

下記のとおり政務活動を実施しましたので、報告します。

記

１．実　施　期　間	平成 26 年 1 月 13 日（月）～1 月 15 日(水)
２．研修会等の開催地または視察、要請・陳情活動先	・1 月 14 日（火） 宮城県石巻市役所 ・1 月 15 日（水） 静岡県駿東郡長泉町役場
３．研修会等の名称または視察、要請・陳情活動内容	・石巻市役所 東日本大震災における被害状況と現状について ・長泉町役場 有害鳥獣対策バリアトーンの活用について
４．研修会等の講師名または視察、要請・陳情活動先の担当者名	・石巻市役所 議会事務局　次長　佐々木恭弘 局長補佐　高橋　伸明 総務部防災対策課　副参事　熊谷　雅之 ・長泉町役場 議会事務局　局長　田中　龍男 産業振興課　課長　川口　正晴 課長　伊奈　健宏 町議会議員　下山　哲夫（現地）

５．活　動　内　容	○石巻市役所 石巻市役所において、東日本大震災における被害状況と現状について説明を受ける。 市内の被害状況は、死者 3166 人、行方不明者 434 人。全壊 19974 棟、半壊 13098 棟、一部損壊 23615 棟、被災住居率 76.6%。 震災瓦礫 629 万トン。 人口は震災前 16.3 万人。震災後 15.1 万人にまで減少。 石巻市は北上川の河口に発展した町であり、古くは米の荷出しで栄えたとの事。よって河川に堤防が無く、津波を防ぐすべはなかった。 今年の 3 月をめどに、瓦礫の処理はめどが立つようであるが、片付いたといった感じで、復興はまだまだである。 職員の方との話しの中で、「いくら高い堤防を作っても防ぐことはできません。逃げる時間をかせぐために作るんです。」といわれました。井原市も防災計画の見直しを行っているが、自然を受け入れ、それに対応した対策が必要と考える。 また、震災時の議員の行動について、議員が個々に地元の要望を対策本部に持ち込むと、優先順位が付けにくくなるので、議会として意見をまとめもらう方がいいという意見があった。現在「井原市議会大規模災害等危機管理マニュアル」を策定しているが、その点も考慮して検討していく必要があると考える。 震災の起きた平成 23 年は七ヶ浜町、24 年は南三陸町、そして今年は石巻市と毎年被災地を訪れているが、復興はなかなか進んでいないと感じる。私達議員も出来るだけ被災地を訪れ、復興の現状を見ていく必要があると思う。 ○長泉町役場 長泉町役場において、有害鳥獣対策バリアトーンの説明を受ける。長泉町は三島市の隣で都市部が多いが、北部においてはカキや芋の生産が盛んである。サルとシカの被害が多い。 猟友会による駆除を行っているが、昨年人身事故が起きたた

	め、現在休止している。 柵やバリヤトーン（特殊な音波で野生鳥獣を駆除する音波発信機）設置に対して補助金を出している。かかる費用の 1/2 以内で認定農業者には 15 万円、その他の者には 5 万円を限度に補助している。昨年から設置し、現在 4 農家で利用している。設置後の被害は報告されていない。 バリアトーンは追い払いの機器であるので、駆除にはなっていない。設置外の地域へ移動も考えられるので、自治体を越えた対策が好ましいと思われる。猟友会などとも連携し、駆除と追い払いの両方で有害鳥獣対策を進めるべきと考える。 人間には影響がないと言われていたが、私個人としては少々気分が悪くなった。影響があったのか。

１．報告書は、政務活動終了後２週間以内に提出すること。
２．活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により活動内容を取りまとめ、活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

様式第２号（政務活動実施報告書）

平成26年 1月22日

井原市議会議長
宮地俊則 様

井原市議会議員
上野安是

下記のとおり政務活動を実施しましたので、報告します。

記

1．実施期間	平成26年1月13日（月）～1月15日（水）〈3日間〉
2．研修会等の開催地または視察、要請・陳情活動先	・宮城県石巻市　石巻市役所 ・静岡県駿東郡長泉町　長泉町役場
3．研修会等の名称または視察、要請・陳情活動内容	・石巻市役所－東日本大震災における被害状況と現状について 長泉町役場－有害鳥獣対策バリアトーンの活用について
4．研修会等の講師名または視察、要請・陳情活動先の担当者名	・石巻市 総務部防災対策課 笹谷雅之副参事 他2名 ・長泉町 産業振興課 川口正晴課長 他3名
5．活動内容	別添のとおり

1．報告書は、政務活動終了後２週間以内に提出すること。
2．活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により活動内容を取りまとめ、活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

5. 活動内容

○ 石巻市役所（1月14日）

～ 東日本大震災における被害状況と現状について ～

防災対策課 副参事　熊谷雅之 氏
議会事務局 次長　佐々木恭弘 氏
〃　局長補佐　高橋伸明 氏

1. 死者、行方不明者（平成25年12月末現在）

死者 3,166人　行方不明者 434人

・人口の推移

16.3万人 ⟶ 15.0万人　△1.3万人
（平成23年2月末）　（平成25年11月末）

2. 浸水範囲の面積と地盤沈下

・(浸水) 73 / (市面積) 556 km^2　市内13.2%（平野部の約30%）が浸水

・地盤沈下　渡波明神　−78cm

3. 被災住家棟数と仮設住宅等

・(被災) 56,687 / (被災前) 74,000 棟 = 76.6%

・仮設住宅　7,122戸　入居者 14,981人　134団地

・民間賃貸住宅　4,661世帯、入居者 12,170人
（平成25年11月末現在）

4. 災害がレキ関係

発生推計量：629万t（石巻の焼却場能力の106年分）

処理推計量：422万t

(1) 処理方法

1次処理：石巻市（被災地～1次仮置き場まで収集運搬）

・市内26か所 約96.5haの用地
（現在は7か所稼動中）

・約367万t搬入済（約87%）

※がレキ撤去率はほぼ100%

2次処理：宮城県（2次置き場で分別破砕、焼却、最終処分）
［環境省発表 平成25年10月31日現在］

(2) 計画期間

平成26年3月まで…

5. 石巻市震災復興基本計画（平成23年12月）

基本理念
1 災害に強いまちづくり
2 産業・経済の再生
3 絆と協働の共鳴社会づくり

市街地復興のイメージ

1. 防波堤 ― 道路(盛土) ― 樹林帯・避難ビル ― 道路(盛土) ― 可住地［非可住地］
（津波の減勢）（第1防御）（津波の減勢）（第2防御）

2. 防波堤 ― 防潮堤 ― 樹林帯 ― 道路(盛土) ― 可住地［非可住地］
（津波の減勢）（第1防御）（津波の減勢）（第2防御）

所感

「振りかえってみると、発災後どのようにして『助けて』という第一声をあげるのか、ということが大事である」とのこと。

現地を視察するに、まだまだ復興はスタートしておらず、これからずっと、という感がした。これからもしっかり東北に目を向けたい。

発災時に議会・議員としてどのように行動するかについては早急に「災害対応マニュアル」を検討し、いざという時に備える必要があると考える。

○長泉町役場（1月15日）

～「バリアトーンの活用」について

産業振興課	課長	川口正晴氏
〃	指導員	伊奈健宏氏
議会事務局	局長	田中龍男氏
町議会議員		下山哲夫氏

有害鳥獣駆逐装置<バリアトーン>

・特殊な音波で農地内や地域内に有害鳥獣を近づけないようにする。

・農作物の収穫前から有害鳥獣に発振音を聞かせて危機感を学習させると、音の聞こえる範囲には近づけないようになる。

・配置範囲は 半径 50m
・設置費用（女性心） 約20万円

長泉町では
設置費用の $\frac{1}{2}$ 以内で
認定農業者は 15万円
その他の者は 5万円 限度の補助

所感
範囲限定では 追い払いには 有効な策であると感じた。広範囲に防ごうとする時には 費用対効果の面で 課題があると思われる。
ただ 最終的に 個体数減の 設備（装置）ではないので 近隣の関係者との連携が ポイントになると考える。

以上

様式第２号（政務活動実施報告書）

平成 26 年　　1　月　29　日

井原市議会議長
　　宮地　俊則　　様

井原市議会議員
　　簀戸　利昭

下記のとおり政務活動を実施しましたので、報告します。

記

１．実　施　期　間	平成２６年１月１４日～１５日
２．研修会等の開催地または視察、要請・陳情活動先	宮城県石巻市 静岡県長泉町
３．研修会等の名称または視察、要請・陳情活動内容	３．１１震災の現状と復興について バリアトーンの有効性について
４．研修会等の講師名または視察、要請・陳情活動先の担当者名	石巻市　総務部災害対策課（震災・原子力担当）熊谷　雅之 長泉町　産業振興課長　川口　正晴 長泉町　産業振興課　　伊奈　健宏
５．活　動　内　容	別添のとおり

１．報告書は、政務活動終了後２週間以内に提出すること。
２．活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により活動内容を取りまとめ、活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

宮城県石巻市　　震災の現状と復興について
震災前の人口　１６万３千人
震災後の人口　１５万１千人
死者　　３、１６５人
行方不明者　　４３５人
※浸水面積　　（石巻市面積）　５５６㎢　中（浸水面積）　７３㎢
※被災住家棟数　　全壊　　１９、９７３棟
半壊　　１３，０９９棟
一部損壊　２３，６１５棟
被災住家合計　５６，６８７棟
※　被災住家数計５６，６８７棟÷被災前全住家数７４、０００棟＝76，６％
〇仮設住宅　　７，１２２戸　　入居者　　１４，９８１人
〇民間賃貸住宅　　４，６６１世帯　　入居者　　１２，１７０人
※災害がれき
発生推計量　　：629 万トン
処理推計量　　：422 万トン
◇主な復興への課題
● 地震と津波による防御の崩壊
● 道路網の寸断や情報通信の断絶
● 避難所対応の遅れ
● 暮らしの復旧の遅れ
● 地盤沈下と内水排除
● 産業基盤の復旧の遅れ
● 公共施設の配置と指定避難所の在り方
● 相互援助体制の確立
● 新しいエネルギー政策への転換
◇実現に向けて
◆ 復興の実現のための財源づくり
◆ 復興の実現のための体制づくり
◆ 震災復興特別制度の活用

◇ 災害公営住宅の整備（3,000 戸）の内まだ（４０戸）である。
◇ 予算は１，０００億円にも及ぶ

石巻は水産業が盛んであったが、市内漁港全てが被災した。しかし、前の講演で聞いた通り、水産業からの復興は早く、漁港も視察させていただいたが、港湾の整備が急務であると聞いたが、その通り、復興の息吹を感じた。海岸近くの住宅地は、議論等を重ね、津波から身を守るための措置を講じての整備になるであろう。
町の復旧はまだまだであるが、国の施策を利用し、きっと、近い将来、街並み整備されるであろう。

静岡県長泉町　　人口４２，０００人　　南北１５㎞東西２，５㎞の町
長泉町は新幹線三島駅、東名高速、新東名高速のインターチェンジからも近い。
ファルマバレープロジェクト（富士山麓先端健康産業集積プロジェクト）に基づき町が県立がんセンター周辺地区に健康・医療関連企業等を誘致するため、県企業局が事業主体となる

造成したファルマバレー長泉工業団地を有する。
バリアトーンの活用について
　有害鳥獣対策に超音波有害鳥獣追い払い機が有効である、との報告がある。
機器から１００ｍ半径は近づかなくなった。特に猿に有効であればよいが、現地の人によると個体数の管理が必要とも言われた。
忌避手段でしかなく、抜本的解決策ではないように思える。一つのツールとして考え、地域としての取り組みも必要であると思える。
被害に困っている農家には、有効かもしれない。

様式第２号（政務活動実施報告書）

平成２６年　１月２９日

井原市議会議長
　　宮地　俊則　　様

井原市議会議員　西田久志

下記のとおり政務活動を実施しましたので、報告します。

記

１．実　施　期　間	平成２６年１月１３日（月）～１月１５日（水）
２．研修会等の開催地または視察、要請・陳情活動先	○1 月 14 日（火） 宮城県石巻市穀町 14 番 1 号 石巻市役所 ○1 月 15 日（水） 静岡県駿東郡長泉町中土狩 828 長泉町役場
３．研修会等の名称または視察、要請・陳情活動内容	○石巻市役所 ・東日本大震災における被害状況と現状について 会議室及び現地での意見交換，質疑応答 ○長泉町役場 ・有害鳥獣対策バリアトーンの活用について 会議室及び現地での意見交換，質疑応答
４．研修会等の講師名または視察、要請・陳情活動先の担当者名	○石巻市役所 市議会事務局　次長　佐々木恭弘 同上　局長補佐　高橋　伸明 総務部防災対策課　副参事　熊谷　雅之 ○長泉町役場 町議会事務局　局長　田中　龍男 産業振興課　課長　川口　正晴 同上　課長　伊奈　健宏 町議会議員　下山　哲夫（現地視察）

政務調査活動内容

東日本大震災における被害状況と現状について

（石巻市役所）１月14日９：００～１１：００

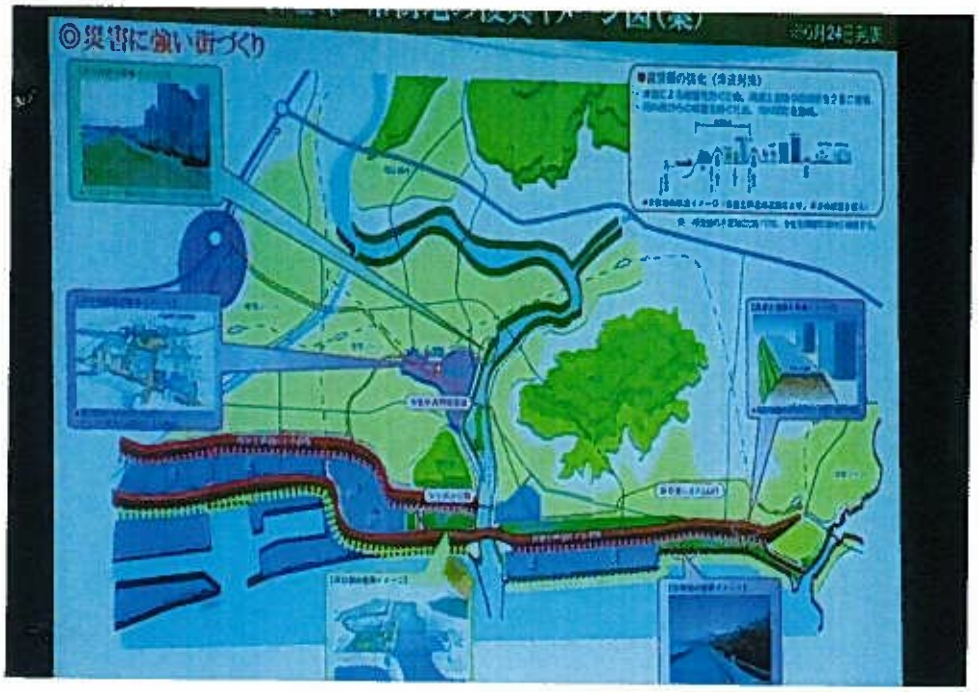
まず、被害状況と現状では、震災当日の津波被害状況をビデオで説明を受けた。はじめは大したことはないだろうという範囲であったが、次第に大きく押し寄せてくる津波に危機感を覚えたビデオであった。自動車や家屋が一飲みにされ無残にも粉々にされていく姿を見るにつれ、津波の恐ろしさ怖さを感じ、またいつ来るかわからない津波に恐怖を覚えた。

今回私たちは、平成 23 年 24 年に続き 3 回目の東北での震災についての政務活動を行った。七が浜、南三陸町に続き石巻の視察で瓦礫の処理が復興の妨げになっていると感じていたが、ここ石巻では今年 3 月までに瓦礫の処理が終了するということでありました。また、被災前と被災後では 1 万 2000 人の減であり、まだ 434 名の方が行方不明だと聞き、その多くが犠牲者であり、また県外移住者も多く復興が早期になされることが必要と感じました。また被災者の方の仮設住宅も整備されつつも、本当の安住の地はと考えると国の施策の遅さを感じられた。

市街地の復興

現地視察

石巻では再度津波に襲われる事をイメージして、沖合に防波堤を整備し津波の減勢を行い、高盛り土により道路を整備することにより津波の第一防御を行いさらに非可住地をはさみ高盛り土により道路を整備することにより更なる安全を確保している。



（長泉町役場）１月１６日９：３０～１１：００

有害鳥獣対策バリアトーンの活用について

長泉町の現状

人口 42,000 人

大きな企業がある

有害鳥獣対策について

1、 猟友会による駆除

2、 柵やバリヤトーン設置費に対する補助金

バリアトーンの効果

柿とサツマイモに導入している。設置後は被害がゼロ。

長泉町も井原市同様、イノシシとサルの被害が増加している。また近年シカの被害も増加している中で、昨年人身事故が発生し、今年度は猟銃による駆除は行わない状況である。

その中でこの超音波に属する電波を発射して有害鳥獣を

駆除する方法は画期的だと思う。100 ボルトの供給や鳥獣が音波になれるのではないか、他の動物や人間に対して被害がないか疑問であるが、現在のところ有効な手段だと思われる。

今回視察をお願いした大きな理由は、動物愛護の中、私たちの近くには近寄らないでほしい、大切な観光資源、生活の糧を荒らさないでほしいという考えであったが、個体数が絶対数増えている現状では、その数を減らすという考えからでは

やはり猟銃、わなに頼らなければならないだろうと思う。

有害鳥獣対策はバリアトーンで解決

有害鳥獣問題を解決

鳥獣駆逐装置および鳥獣駆逐方法

特許第4358285号

バリアトーンは特殊な音波で野生鳥獣を駆逐する音波発信機です。
音や音波は最初は効果があるが、音慣れして効果が無くなると通説になっておりますが、これ等は　音響や音波で脅かしたり、個体が聞くと嫌がりそうな音波を発振しているので、音に慣れて効果が無くなる訳です。

地震が発生する前に、野鳥や野獣が騒いだり逃げ出したりする話は、地震が起きた後に一度は聞いたことがあると思います。
バリアトーンは、地震発生の前兆音を利用した『特許取得』鳥獣駆逐装置ですから、発振音を感知した野生鳥獣は危機意識が生じて、音の聞こえる周辺には近づかなくなり、音慣れしない効果があります。

７年間、効果試験を実施した結果、イノシシ・猿・鹿・熊・ハクビシンに、９０％～１００％の効果があることが認められています。

発振音の音圧は、国際保険機構の基準値以内ですから、人体への影響はありませんので、安心してご利用できます。
騒音に関する音量も基準値以内ですので容易に運用ができます。

有害鳥獣問題を解決

鳥獣駆逐装置および鳥獣駆逐方法で特許を取得

特許第4358285号

鳥獣駆逐装置の発振する音は、個体が聞くと直ちにその場所から逃げる音ではありませんが、個体が学習することで本能的にこの場所は危険であると認識して、設置場所周辺には近寄らなくなります。

発振音は、音響音波等で驚かしたり、個体がいやがる音などとは根本的に違い、自然界の危険信号音ですから音馴れしない効果があります。

運用は24時間音を出し続けることで駆逐効果が発揮されます。

装置は、棚や防護ネット等物理的遮断方法ではないので、稀にわずかな被害や侵入痕跡がみられる事もあります。

個体別製品表

① **バリアトーン** 猿・鹿・イノシシ・熊・ハクビシン

② **ガドリオン** カラス・野鳥……(広範囲用)

ガドリオンS カラス・野鳥 (全鳥類の効果試験をしておりませんので、駆逐効果がでない鳥もおります。)

③ **モグチュー** モグラ・野ネズミ

駆動電源はDC－12V

○ご注文時にバッテリー使用か、AC100Vかをご指定ください。

○バッテリー使用には、接続クリップを別途にてお取付します。

○AC100V使用には、AC-DCにはアダプタを別途にてお取付しま。

効果範囲 約100m四方 **駆動電源** DC－12V

バリアトーン取付写真

有害鳥獣駆逐装置　＜　バリアトーン　＞

バリアトーンは特殊な音波で、農地や地域内に有害鳥獣を近づけないようにして、被害を最小限および防止する為に開発した鳥獣駆逐装置です。
農作物の収穫前から有害鳥獣に発振音を聞かせて危機感を学習させると、音の聞こえる範囲には近づけないようになります。
駆逐範囲は地形や環境で異なりますが、バリアトーンを中心に半径約50mです。

個体別による主な生態と効果

● **イノシシ**

イノシシは、嗅覚や学習力、身体能力も抜群に優れています。
警戒心も強いが好奇心もあるので、バリアトーンの近くまで来ている痕跡や小規模な被害も運用後ありますが、その後は近寄らなくなります。

● **猿**

猿は、記憶力や学習力も抜群によく、音や動きに敏感で瞬時に状況判断して、危険であるかを見抜く賢さがあります。
運用後は群の先攻猿やはぐれ猿が発振音を感知して危機感を生ずるのにわずかな被害がありますが、群による被害は無くなり近寄らなくなります。

● **鹿**

鹿は、朝方と夕方に採食に動きまわります。
バリアトーンの近くまで来ている痕跡も見られますが、危機意識が生じるので近寄らなくなります。

● **熊**

熊は、明け方と夕暮れ前に動きまわり食べ物を漁ります。
小さな音でも聞き分ける聴覚能力が発達しており、バリアトーンの発振音が聞こえる範囲には近寄らなくなります。

● **ハクビシン**

ハクビシンは夜行性で夜中に活発に行動します。
バリアトーンの発振音を聞くと危機感が生じて近寄らなくなります。

● **カラス**

カラスは記憶力などが鳥類のなかで最も賢く、鳴き声や鳴き方で仲間とのコミュニケーションをとるので、発振音を聞いたカラスは仲間を誘い群で音を聞きに来ますが、その後は近寄らなくなる効果があります。

『カラスには、カラス・野鳥駆逐装置の**ガドリオン**が効果を発揮します』

価 格 表

平成25年1月

● **バリアトーン**　猿・鹿・熊・イノシシ・ハクビシン・(カラス)

標準価格　　198，000円（消費税別）

バッテリー使用かAC-100V使用かをご指定下さい。
バッテリーの場合は、バッテリー接続クリップ取付費　2,000円、AC-100Vの場合は、AC-DC変換アダプター取付費　5,000円にて取り付けします。

● **ガドリオン**　カラス・野鳥（広範囲用）

標準価格　　210，000円（消費税別）

バッテリー使用かAC-100V使用かをご指定下さい。
バッテリーの場合は、バッテリー接続クリップ取付費　2,000円、AC-100Vの場合は、AC-DC変換アダプター取付費　5,000円にて取り付けします。

● **ガドリオンS**　カラス・野鳥　＜バッテリークリップ付＞

標準価格　　120，000円（消費税別）

● **モグチュー**　モグラ・野ネズミ　＜バッテリークリップ付＞

標準価格　　70，000円（消費税別）

2013.10.3 静岡新聞（夕刊）

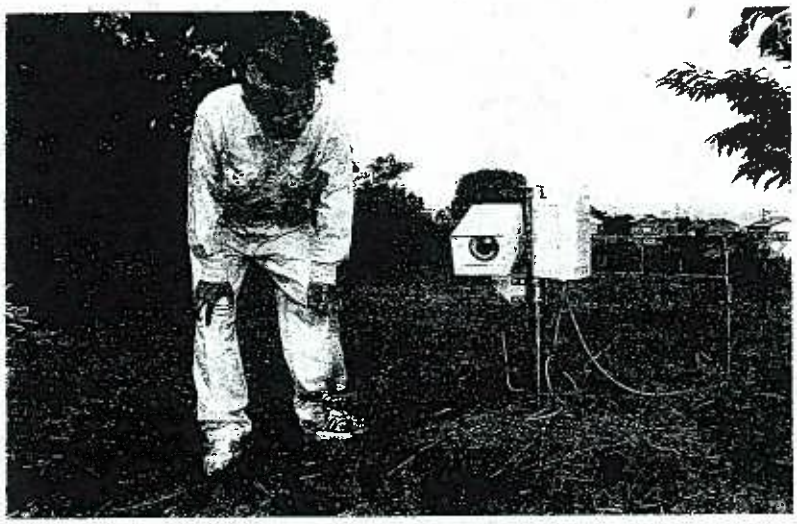
新聞（夕刊）（第三種郵便物認可）

超音波で鳥獣撃退

農作物被害に〝新兵器〟

長泉の畑で効果 町が補助対象に

農家を悩ませる鳥獣による農作物被害。防護柵や忌避剤などさまざまな対策が取られる中、超音波を使った〝新兵器〟が登場し、効果を挙げている。動物が本能的に嫌がる超音波を発する装置を畑に置くことで、サルやイノシシ、シカなどが近寄らなくなっている。



サツマイモ畑に設置された超音波で鳥獣被害を防止する装置＝9月11日、長泉町下長窪

長泉町下長窪のサツマイモ畑では、サルが苗を根元から引き抜いたり、シカが葉を食べて成育を阻害したりする被害が続いた。昨年は約2千平方㍍に植えた6千本の苗のうち、150本前後が抜かれ、300本ほどの葉が食べられた。

畑を管理する「長泉町干し芋研究会」は昨年、超音波でサルが近寄らなくなる装置「バリアトーン」を設置した。畑の隅に置かれた装置からは「ピッ、ピッ」と数秒ごとに電子音が響く。神戸政孝会長(69)は「設置後はサルの被害は皆無で、シカの被害もごくわずか。収穫が近づいているが、今年も大丈夫だろう」と効果の継続を期待する。

製造元のアンナカ（群馬県高崎市）によると、電子音と一緒に「AE波」と呼ばれる地震時などに発生する超音波を発する装置で、3年前から本格的に販売している。AE波は周波数が高いため、人間には聞こえないが、動物にとっては不快な音となる。本体価格は約20万円。安中浩社長(62)は「動物が慣れないので、効果が持続する。自然界に存在するので、人体に影響はない」と説明する。

同社の装置を今年1月に購入した河津町有害鳥獣対策協議会は町内数カ所で試験的な設置を始めた。サルの被害に遭っていた農産物販売所では、遠巻きに眺めるサルはいるものの、商品には手を付けなくなったという。

長泉町は本年度、農家を対象にした有害鳥獣対策の補助金対象に超音波による侵入防止装置を新たに加えた。補助金は最大15万円。1軒の柿農家が既に設置した。

Q 県内の鳥獣被害　県農山村共生課によると、野生鳥獣による農作物への被害額は2009年度の5億3675万円をピークに減少しているが、11年度（速報値）も4億1375万円に上る。このうち、イノシシによる被害が最も多く1億9321万円で、次いでシカ7252万円、サル5439万円と続いている。

27歳女性の死体遺棄容疑

宮崎、知人3人逮捕

宮崎県警は3日までに、宮崎市瀬頭2丁目の無職沢木友美さん(27)の遺体を切断して隠したとして、死体遺棄の疑いで知人の男女3人を逮捕した。殺人の疑いもあるとみて捜査している。

逮捕されたのは住所不定、無職東竜二容疑者(28)と宮崎市瀬頭2の5の2、無職金丸真菜実容疑者(23)、同市橘通東1の6の20、無職阿部祐美容疑者(22)。

3人の逮捕容疑は、共謀して8月ごろ、沢木さんと金丸容疑者が同居していたマンションで遺体を切断し、阿部容疑者が住むマンションの部屋に隠した疑い。3人は容疑を認めているという。

元弁護士の男逮捕

警視庁 兄殺害し

東京都墨田区の自宅で昨年11月、無職大久保敏明さん＝当時(58)＝が殺害された事件で、警視庁向島署捜査本部は3日、殺人の疑いで、弟の元弁護士敦容疑者(52)の逮捕状を取り、任意同行した。容疑が固まり次第逮捕する方針。

捜査関係者によると、敦容疑者は昨年11月下旬、墨田区東向島1丁目の敏明さん宅による犯行とみて交友関係を中心に捜査していた。

事件は昨年12月2

性運び救助か

横浜市緑区事故で重傷を死亡した会社(40)がレールしたため助かが3日、神奈った。

緑署や自警性は事故直前さるように横

衛星放送を無料で視聴

いるため、未契約の状

超音波にびくびく

有害獣追い払い機が効果

長野で試験活用

有害獣を追い払う音波・超音波発生装置。電気で24時間稼働する

鹿やイノシシは超音波がお嫌い――。長野県大町市の地域興し団体と農家グループは、超音波を発生する有害鳥獣追い払い機を試験的に活用し、効果を実感している。小型スピーカーから人には聞こえない周波数2万㌹以上の超音波を出す。昨年からナタネとソバの畑で使う同市美麻地区「菜の花農業生産組合」副代表の種山博茂さん（69）は、「機器から100～200㍍の範囲までは出没しなくなった」という。

㈲アンナカ（群馬県高崎市）が開発した「バリアトーン」。超音波と同時に、低周波で人にも聞こえる高音や低音も出す。種山さんは「畑の向こうにある鹿やイノシシが出る林に向けて音を出す」と説明する。

共同で実験する同市の任意団体「NPO地域づくり工房」の傘木宏夫代表は「超音波に慣れて効果が無くなるのではと半信半疑だったが、この間、畑周囲で被害がずっと出ていない」と手応えを話す。

アンナカによると、発生する超音波は、地震の前兆現象として地下の岩盤破壊が発するAE波。「AE波に野生動物がおびえるのに着目し、人工的に音を作り出した」（安中浩代表）。効果のある波長が動物の種類によって異なるとし、複数のAE波を組み合わせた。さらに、人にも聞こえ、100㍍以上届く動物が興味を持つ音も同時に出す。

この音で動物を近くまでおびき寄せ、十数㍍の範囲しか届かないAE波を聞かせる。動物は次から音を聞いただけでAE波を連想し、怖がって寄りつかなくなる仕組み。開発した8年前から山梨県内の山林でイノシシ対策で継続的に設置し、「イノシシはいまだに戻って来ない。効果は持続する」（安中代表）。

長野県安曇野市は今年度、機器を補助金の対象とした。昨年、市内のリンゴ園で猿対策で試験導入し、利用農家から「電気柵などいろいろ試したが一番効果があった」と評価されたためだ。同市の担当者は「今年は同じ原理で鳥に効果のある機器もテストしている」と話す。

バリアトーンの価格は1台19万8000円。問い合わせはアンナカ、㈱027（384）8431。

H25 年度

有害鳥獣防護柵等設置費補助金について（ご案内）

近年、有害鳥獣（シカ・イノシシ・サル･カラス・ハトなど）による農作物への被害が増えています。被害を防止するためには、防護柵等を設置し、自己防衛をすることが重要となります。そこで、有害鳥獣の防護柵等設置費の一部に補助金を交付します。

●補助対象者

長泉町農地基本台帳に登載された者

※交付申請は、１世帯１年度につき、１回の申請を限度とし、同一申請地では３年間申請できないものとする。

●補助対象の防護柵等

有害鳥獣を防止する柵（電気柵・金網柵・侵入防止装置など）

●補助金額

防護柵等の設置に係る費用の２分の１以内で、認定農業者にあっては15万円、その他の者は５万円を限度とする。（1,000円未満切り捨て）

●申請の手順

①長泉町有害鳥獣防護柵等設置費補助金交付申請書（様式第１号）に添付書類を添えて、産業振興課に提出してください。

※添付書類
・長泉町有害鳥獣防護柵等設置計画書（様式第2号）・防護柵等設置場所の位置図及び施工前の写真

②内容を審査し、補助金交付決定通知書が通知されます。

③防護柵等の設置

※防護柵等設置計画書に変更（廃止）がある場合には、変更等承認申請書（様式第４号）を産業振興課に提出してください。但し、補助金額に変更のない場合は、提出不要です。内容を審査し、変更等承認通知書が通知されます。

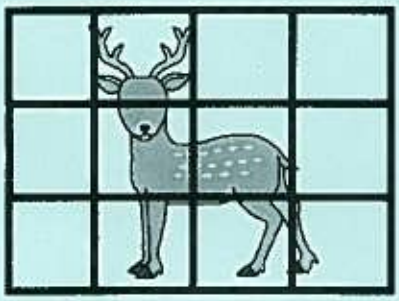
④設置後、長泉町有害獣防護柵等設置完了報告書（様式第６号）に添付書類を添えて、産業振興課に提出してください。

※添付書類
・防護柵等設置に係る費用を証明する領収書等の写し　・防護柵設置場所の施工後の写真

⑤内容を審査し、補助金交付確定通知書が通知されます。

⑥補助金交付確定通知書を受領してから10日以内に請求書（様式第８号）を提出してください。

⑦指定口座に補助金が交付されます。



お問い合わせ
長泉町役場　産業振興課　産業振興チーム
☎055-989-5516　fax055-989-5656
e-mail:sangyo@nagaizumi.org

様式第２号（政務活動実施報告書）

平成 26 年 1 月 27 日

井原市議会議長
宮地　俊則　　様

井原市議会議員
藤原　清和

下記のとおり政務活動を実施しましたので、報告します。

記

１．実　施　期　間	平成 26 年 1 月 13 日（月）～平成 26 年 1 月 15 日（水）
２．研修会等の開催地または視察、要請・陳情活動先	宮城県石巻市　・　静岡県駿東郡長泉町
３．研修会等の名称または視察、要請・陳情活動内	別紙のとおり
４．研修会等の講師名または視察、要請・陳情活動先の担当者名	別紙のとおり
５．活　動　内　容	別紙のとおり

１．報告書は、政務活動終了後２週間以内に提出すること。
２．活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により活動内容を取りまとめ、活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

平成26年1月27日

行政視察報告書

◎日　時　　：　平成26年1月14日（火）午前9：00時

視察先　　：　宮城県石巻市

視察内容　：　東日本大震災における被害状況と現状について

研修担当者：　防災対策課　熊谷　雅之

議会事務局　佐々木　恭弘

高橋　伸明

◎日　時　：　平成26年1月15日（水）午前9：00時

視察先　　：　静岡県駿東郡長泉町

視察内容　：　「バリアトーンの活用」について

研修担当者：　産業振興課　川口　正晴

伊奈　健宏

議会事務局　田中　龍男

行政視察参加者

西村　慎次郎　　荒木　謙二　　惣台　己吉

三宅　文雄　　坊野　公治　　上野　安是

簀戸　利昭　　西田　久志　　藤原　清和

宮城県石巻市

◎東日本大震災における被害状況と現状について

＊平成23年３月11日（金）　　午後２時46分

震源：三陸沖（牡鹿半島の東南東約１３０ｋｍ）

・マグニチュード９の巨大地震発生

・午後２時４９分　「大津波警報」発令

・石巻市では、市街地を含め約73㎢が浸水

被災住家は約７割の53,742棟。内22,357棟が全壊

〇市庁舎の屋上から撮影された映像を見ながら、震災の被害状況・津波の浸水状況等、説明をいただきました。

〇市内の高台から、震災復興状況についての説明もいただきました。

◎すでに、被災から間もなく３年になる今日、復興に向けての取り組みが進められていますが、急ピッチで進捗しているという実感は受け取れない状況であった。

◎震災の影響で、地盤沈下の地域・避難所対応の遅れ・暮らしの復旧の遅れ等々、復興への課題が山積している中で、復興実現に向けてこれからが正念場であり、石巻市のみならず、東日本大震災被災地の一日も早い復興を願うばかりでございます。

◎今日、東南海地震の発生に備えての防災計画が、再々見直しされていますが、そのエリア内に居住する私たちは、東日本大震災の現状をしっかりと受け止めて、個々に家族や地域と共同体制の確立を再認識しての、定期的な防災訓練が必要であると思います。

静岡県駿東郡長泉町

◎有害鳥獣対策「バリアトーン」の活用について

＊「バリアトーン」は、特殊な音波で鳥獣を駆逐する音波発信機です。

地震発生の前兆音を利用した「特許取得」鳥獣駆逐装置。半径約50mの範囲内です。

＊１機　２０万円　　電源１２Ｖが必要。

＊猿・イノシシ・鹿・カラス・熊・ハクビシンなどの個体に効果あり。

◎有害鳥獣の捕獲にはなりませんが、費用対効果を考慮しながら、果樹園・農作物の耕作地での活用には効果があると思います。

か
に
育
て
心

長泉町 特産
四ツ溝柿